

科目	生活行動援助技術 演習				
時間数	1 単位 30 時間	授業方法	演習	授業時期	1 年
講師名	③渡邊知美 ③鈴木さやか ③坪本秀美				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	基礎看護学実習 I で行う生活行動援助について、臨地で指導者と共に実施ができるよう、受け持ちとなる対象の状況をイメージしたシミュレーションを行う。演習をとおして、1 つの生活行動援助が、1 つの看護技術で出来るのではなく、複数の看護技術の組み合わせによって構成されていることに気づく。シミュレーションの前後に、基本原則にもとづいた援助ができたか、実施と結果を考察することをとおして、臨地実習に向けて動機付けができることをねらいとする。				
目標	脳梗塞後、左片麻痺のある患者のシャワー浴介助において、 1. 対象の状況を考慮した看護技術を計画することができる 2. 対象の状況を考慮し、看護技術を実施することができる 3. 実施した看護技術の結果を評価し考察することができる 4. 患者役を経験することで、自己の援助につなげることができる 5. グループ活動を通して、自己の役割を全うするとともに、グループ間で協力し合うことができる				
授業計画					
回	内 容				
1～3	シャワー浴演習についての OR、事前学習				
4～10	4 グループに分かれて、臨床講師からの指導や助言を受ける。(臨床講師は担当グループ時のみ参加指導)				
11～12	実技テスト				
13	振り返り				
14～15	3 年生(統合実習:指導実習)からの指導を受けて技術演習				
評価方法	その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 実技 50%、援助記録 25%、相互評価 5% 記録物提出状況 20% を総合して評価する。 60 点以上を及第点とする。				
教科書	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ:医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第 2 版:医学書院				